

Grammar Nazi とその関連表現を探る

竹中裕貴

0. はじめに

いわゆる「文法」を意味する **grammar** という英語は、第一義的にはどのように定義されているのであろうか。CALD3 では次の通りである：

- (1) [U] (the study or use of) the rules about how words change their form and combine with other words to make sentences

確かに、(1) のように一般的な定義としては、文を作り出すために語と語を結びつけるための規則を指す。しかしながら、**grammar** は単語の屈折や結合の他にも、より幅広い規則に言及することができる語である：*ODE3* の定義が詳しく分かりやすい：

- (2) [mass noun] the whole system and structure of a language or of languages in general, usually taken as consisting of syntax and morphology (including inflections) and sometimes also phonology and semantics. (s.v. **grammar**)

(2) には、統語論、形態論、そして音韻論に至る包括的な領域にまたがる総合的な規則の総体として定義されている。したがって、**grammar** と言っても、文脈や使用者により、その意味するところに幅が存在することになる。本稿で「文法」という語を使用した場合、以降 (2) の意味で、ある言葉に関わる総合的な規則に言及するために用いているものとする。

また、文法の研究にも、いくつかの範疇が存在する。例えば、Hazen (2015, pp.14-19) で取り上げられている以下の5つを挙げることができる：

- (3) a. Prescriptive grammar
b. Descriptive grammar
c. Teaching grammar
d. Mental grammar
e. Universal grammar

特に、(3a) の規範文法 (prescriptive grammar) に関連して、言語の使用について標準変種をそのほかの変種 (方言) より優れているものとし (prescriptivism) [cf. Crystal (2010), pp.2-3],

その標準変種において「正しい」と規定される文法規則に従わないものを許容しない立場が古くからある。1) 文法に詳しい、またはうるさい人間を *grammarian* 呼んだり、*grammar-lad* や *grammar-monger* (Hazen 2015, p.14) などと呼ぶことがあるが、特にこのような人々は、*language purist* としても知られている [cf. Fromkin *et al.* (2011), p. 295]。

現代においても、この「正しい」英語の文法というのはたびたび問題となる。このような状況を Mike Peters が風刺しているが、まず、(4) では綴字法の誤りを指摘する人々が意識されている。いつも吹き出し(bubbles)で綴り間違い (*misspelling*) を批判されているという Grimm は、“*misspelling*” と言ってしまい、s が一つ足りないことを Attila に指摘されてしまっている：

(4)



(<http://www.grimmy.com/>)

また、次の (5) では、インターネットや携帯電話の興隆とともに流行する以下のような省略表現についても、その使用について議論が付きないところである 2) 携帯電話で、“Grimm, see you later tonight” を “Grmm c u l8r 2nite” と母音を落とし、数字を用いた省略表現を使用した Ralph に、Grimm が辞書を投げつけている：

(5)



—*ibid*

ところで、特に英語では 17, 18 世紀から、規範的な立場に立ち変化に非寛容な人々は、上述したように *language purist* などとして知られているが、この他にもいくつかのバリエーションが生まれている。しかし、問題なのは、一般の辞書を引くなどしても、このような表現を簡単に知ることはできないということである。

そこで本稿では、そのような表現の一つとして使用されるようになっている *grammar Nazi* をまず取り上げ分析する。そして、その他にもどのような類似表現があるか、そのいくつかを探り、それらがどのような言語文化的背景を持っているのかをまとめ、分析しておきたい。

1. Grammar Nazi の用法と定義

まず、以下の (6) を見られたい。*The Washington Post* の Alexandra Petri による *ComPost* というブログのコーナーの記事の一節であり、そのタイトルは “Save the Whoms!”³⁾⁴⁾ であった (以下、例文中の下線は筆者によるものである) :

- (6) The trouble with grammar is that it is like all those days you walk down the street with your underwear on the right side of your pants. Does anyone comment on those times? No. It is the one time you slip up that everyone mentions. Grammar Nazis never stop you on the street to say, “What a beautiful subjunctive that was. Clear as a bell, and I loved the appositive you were rocking earlier. Fierce!” They just chase you down, like Javert, shouting, “Whom! Not who! Whom!” Grammar Nazi is one of the few Nazi comparisons that we have permitted to stand unchallenged. Few things are so irksome as the person who snaps up at you shouting, “Don’t give it to me and Tanya! Personal pronoun comes last!”

(https://www.washingtonpost.com/blogs/compost/wp/2013/03/22/save-the-whoms/?utm_term=.36bd43c84cf0)

関係代名詞 *Whom* が消えつつあるという議論を発端に、文法に関わる間違いを指摘する人間について、下線部のように *Grammar Nazi* という表現を 2 カ所で使用している。

また、*HuffPost* は、以下 (7) の記事が書かれた 2017 年 2 月 8 日時点で、Donald Trump アメリカ合衆国大統領政権の大統領首席戦略官であり、上級顧問でもあった Steve Bannon について、Stephen Colbert の *Late Show* における下線部の皮肉を引用しながら批判している。⁵⁾

- (7) Stephen Colbert had sharp words of criticism for the Trump administration’s claim that major media outlets underreport terrorism as it produced a list of 78 violent attacks. (“No. 5 will shock you.”)

In a segment on Tuesday’s “Late Show,” host Colbert brought up a point that had been repeated by many reporters hours earlier — many of the attacks had actually generated extensive coverage,

like those in San Bernadino, Orlando, Paris and Nice.

The administration's list was troublesome in one other way, too. It's "loaded with typos, like 'attaker' instead of 'attacker' and 'Denmakr' instead of 'Denmark,'" Colbert said.

"So, at least we know Steve Bannon isn't a grammar Nazi."

(http://www.huffingtonpost.com/entry/stephen-colbert-delivers-scathing-critique-of-steve-bannon-over-terrorism-list_us_589afbdce4b04061313a704d)

Nazi を連想させるほど右派として知られている Steve Bannon ではあるが、多くの綴りの誤りを含むリストを発表するくらいであるから、正確な文法 (grammar) を用いることに固執する Nazi ではないと揶揄しているのである。

このように、文法の問題が議論されるとき、Grammar Nazi または grammar Nazi という表現が少なからず散見される。以上の用例を見れば、文脈からある程度の意味はくみ取ることができるが、これは正確にはどのような言語的特徴を備えた語であろうか。

すでに *Urban Dictionary* に投稿された定義が複数あるが、以下の定義はその用法について網羅的であり、表現の理解に有益である：

(8) noun (pl. -s)

1. A person who uses proper grammar at all times, esp. online in emails, chatrooms, instant messages and webboard posts; a proponent of grammatical correctness. Often one who spells correctly as well.

2. a – A person who believes proper grammar (and spelling) should be used by everyone whenever possible. b – One who attempts to persuade or force others to use proper grammar and spelling. c

– One who uses proper grammar and spelling to subtly mock or deride those who do not; an exhibitor of grammatical superiority. d – One who advocates linguistic clarity; an opponent of 1337-speak. e – One who corrects others' grammar; the spelling police.

proper noun

3. A nickname, pseudonym or handle for a well-known grammar nazi (defs. 1 and 2) within a particular social circle, used to show either great respect or great contempt for his or her abilities.

verb (transitive)

4. To correct the grammar of (a person's speech, a piece of writing, etc.); to edit for grammar and spelling; to proofread.

1. A grammar nazi knows the difference between “there,” “their” and “they’re.”
2. Teh grammar nazis haev invadd r formu.
3. Grammar Nazi, help me with my English homework please.
4. He totally grammar nazied my article, replacing pronouns and rewriting clauses.

by Qaanol January 21, 2005

—s.v. **grammar Nazi**

(<http://www.urbandictionary.com/define.php?term=Grammar+Nazi>)

また、*Wiktionary* も参考になる：

- (9) **grammar Nazi** (plural **grammar Nazis**)

(slang, idiomatic) A person who habitually corrects or criticizes the language usage of others.

Related terms

- spelling Nazi
- language Nazi

— *Wiktionary*, s.v. **grammar Nazi**

(https://en.wiktionary.org/wiki/grammar_Nazi)

(8) の定義から簡潔にまとめれば、可算名詞として、正確な文法 (**proper grammar**) を使用する人間、またはその使用を勧め、押しつける人間を指す表現であることが分かる。また、特に綴字法に重点を置いた **the spelling police** という表現にも触れられており、別の派生表現があることも分かる。

さらに、ニックネームとしての固有名詞の用法、そして文法や綴りの修正を行うという意味での他動詞用法 (品詞転換) も認めていることも興味深い。特に英字新聞などの公のメディアには動詞としての用法は見つからず、とりわけ **grammar Nazi** をさらに品詞転換して用いるような非常に格式張らない用法は、上記定義にある “online in emails, chatrooms, instant messages and webboard posts” などの言語空間に限られているようである。実際に個人レベルでのインターネット上の掲示板などの発言を調べれば、動詞として用いている例が数多く見つかる。⁶⁾

(9) からも、同じような名詞として同じような定義とともに、これが格式張らない表現であることも改めて確認でき (“slang, idiomatic”), 同時に **spelling Nazi** や **language Nazi** のような、**Nazi** という語を利用した関連表現があることも分かる。

また、日本語の定義では、『英辞郎』が参考になる：

- (10) 《a ~》〈俗〉文法ナチ、文法の間違いについて厳しく指摘する [あら探しをする] 人 ◆漠然とした例えとしての「ナチ黨員」。「高圧的に規則を押し付ける」というほどのニュアンス。◆【注意】「多くの犠牲者を出した歴史上の出来事をちやかす軽薄な表現で、好ましくない」と考える人もいる。**grammar cop**, **grammar nitpicker**, **grammar freak** などと言い換えることができる。

(<http://eow.alc.co.jp/search?q=grammar+nazi&ref=sa>)

後に議論する表現の使用に関する賛否や、いくつかの言い換えが参考になる。

2. X + Nazi が生み出す意味

さらにこの表現をより正確に把握するために考えておかななくてはならない点がある。それは、**grammar Nazi** を形成する **Nazi** という語である。これ自体は、**Nazi Germany** に由来する語であることは疑問の余地はない。

しかしながら、以下のような意味を持つに至っていることも知っておかななくてはならない。

- (11) **2 DISAPPROVING** someone who is cruel or who demands an unreasonable degree of obedience, or someone who has extreme and unreasonable beliefs about race —*CALD3*, s.v. **Nazi**

すなわち、残酷で理不尽な服従を要求する人物や、人種に関して極端で理不尽な思想を持っている人間を指す語となっているのである。ナチズムの連想から本来軽々しく使用できない語であるはずが、**Nazi** から連想される「人物像」のみに焦点が当たり、比較的その使用に抵抗がなくなってしまった結果、このような用法が辞書に採録されるほど一般化したようである。そして、**grammar** という名詞と結びつく生産性も生まれ、上述のような意味を形成したのである。**spelling Nazi** や **language Nazi** のような表現も存在していることから、**X** を任意の名詞とすると、**X Nazi** は次の (12a,b) のような意味を形成すると言うことができる：

- (12) a. **X** が好きであり、異常に固執する人物
b. **X** に関連する自分が正しいと考える規則を不当に押しつけようとする人物

そこで当然考えられるのは、**Nazi** を使用したその他の表現である。すなわち、**X** には他にどのような名詞が用いられるのかということである。

まず、アメリカ英語をおよそ 5 億 2 千万語 (2017 年 9 月時点) を検索できる COCA を利用してアメリカ英語における用例を確認してみる。検索結果をみると、それぞれの数はさほど多くなく、1 例しか見つからないものがほとんどであるが、**grammar Nazi** 以外にもいくつか興味深い表現が現れる。最も多かったのは、**SOUP NAZI** であり、この表現はアメリカのシットコム (sitcom) である *Seinfeld* のシリーズの 1 つの話のタイトルとなっており、同時に登場人物である Yev Kassem のニックネームである。⁷⁾ 次のように **grammar Nazi** と共に言及されているものもある：

- (13) From Jerry Seinfeld's "Soup Nazi" encounter on his 1990s TV sitcom – "No soup for you!" – to friendly jabs at staunch grammarians – "grammar Nazi" – the use of the word **Nazi** has become so common there even is a theory about it: Godwin's Law, named for an author who believes that as Internet discussions continue, the chance of them devolving

into Nazi and Hitler references grows.

(<http://www.ocregister.com/2014/03/06/san-juan-capistranos-devolving-discourse-comes-amid-tumultuous-times-in-local-politics/>)

そのほか、上記 (11) のような形で形成された表現に該当するものを精査し抜き出すと以下の表のようである。

(14)

	word	freq.
1	SOUP NAZI	24
2	GRAMMAR NAZI	2
3	POND NAZI	2
4	NIPPLE NAZI	2
5	ZOMBIE NAZI	1
6	YOGA NAZI	1
7	WEDDING NAZI	1
8	VOTE NAZI	1
9	SPELLING NAZI	1
10	POWER NAZI	1
11	NATURE NAZI	1
12	FOOD NAZI	1
13	CHRISTMAS NAZI	1
14	CHEER NAZI	1
15	BODY NAZI	1
16	BIKE NAZI	1

16 例確認できるが、上述のとおり、それぞれ頻度が低い。しかし、本稿の調査でも様々な表現が現れることから、X Nazi という形式は定着しているようであり、X にはそれぞれの状況に応じて臨時的に様々な名詞が用いられるようである。

また、*The Chronicle of Higher Education* の *Lingua Franca* (<http://www.chronicle.com/blog/s/linguafranca>) というセクションの中で、英語学者の Anne Curzan は、後に触れる *grammar Nazi* の代替表現を議論した “Going Grammando” [grammando についても次節で議論する] と題した記事において、(15) のような “nazi” を用いた表現を挙げていた。(15a-f) の Nazi は nazi と小文字で綴られていたが、(15e) は上述のシットコムの一つのタイトルであるため大文字であり、最後の (15g) は *OED* からの引用であった。

- (15) a. fashion nazi
 b. etiquette nazi
 c. fitness nazi
 d. spelling nazi
 f. surf nazi
 e. Soup Nazi
 g. Safety Nazis

X Nazi (または nazi) には, fashion, fitness, surf のような趣味に関わる名詞や, 社会問題を扱う文脈の中で, それに関連する safety のような名詞とも結合することが改めて分かる。

また, もう一つ, grammar Nazi とその類似表現が現れる議論を見ておきたい。BBC では, Steven Pinker の著書, *The Sense of Style: The Thinking Person's Guide to Writing in the 21st Century* の抜粋が, “Why grammar pedants miss the point” と題されて記事になっているが, その中で, 「正しい」英語の用法に固執する人々について, (16) のように議論している:

- (16) Who are these writers? You might think I'm referring to Twittering teenagers or Facebooking freshmen. But the writers I have in mind are the purists –also known as sticklers, pedants, peevers, snobs, snoots, nit-pickers, traditionalists, language police, usage nannies, grammar Nazis and the Gotcha! Gang. In their zeal to purify usage and safeguard the language, they have made it difficult to think clearly about felicity in expression and have muddied the task of explaining the art of writing. (<http://www.bbc.com/culture/story/20140923-dont-be-a-grammar-nazi>)

上記の一節には, そのような人々の呼び名についてまず (language) purist を挙げ, その後に言い換えを行っている。sticklers や pedants をはじめ, Nazi ではなく police が用いられた language police⁹⁾ をはじめ [(8) には the spelling police の記述があった], snoot⁸⁾ や, Gotcha! Gang¹⁰⁾ といった少し異質な表現も見られる。

それぞれの表現には, また独特の言語文化的な要素が含まれており, それぞれに分析してみる価値はあるが, 本稿では補注にとどめておくことにする。

3. grammar Nazi の問題とその代替表現について

上記 (11) の *DISPROVING* のラベルを確認するまでもなく, この語を形成する Nazi という表現は, 当然ながら非常に否定的な意味を歴史的な背景から含んでいる。現在ではその使用に抵抗があまりなく, grammar Nazi をはじめ, 様々な派生表現が生まれているが, それでも, (10) で指摘されるように, Nazi という語を含む grammar Nazi の使用を避け別の表現の使用を模索しようとする動きもある。他の語と結びつき, X Nazi という形を取ることで, Nazi が本来持つ歴史的な, 文法の誤りを指摘するために使用するにはあまりにも暗然たる意味がさら

に希薄になり、その容認性と生産性が上がっているにしても、その使用は慎重であるべきだと考えられる。

grammar Nazi について議論した *QuickAndDirtyTips.com* では、(16) の下線部のような代替案が紹介されている。以下、長くなるが表現を含む一節を引用する：

(17) **Alternatives to ‘Grammar Nazi’**

Andy Hollandbeck, a columnist for *copyediting.com*, has recommended the term “errorist.” Lizzie Skurnick, a writer for *The New York Times Magazine*, has recommended “grammando.” John McIntyre of “*The Baltimore Sun*” coined the term “peeververein” (a blend of the word “peever” and the German word for “club” or “association), and Simon Horobin, a professor of English and literature at Oxford, surfaced the word “grammaticaster,” which was used by the famous dictionary writer Samuel Johnson to describe a “mean verbal pedant.” Stan Carey, a frequent writer for the *Macmillan Dictionary* blog, has compiled a large collection of alternatives including many of those I’ve already mentioned plus “grammar grouch” and “language crank.”

I don’t love any of those suggestions, but they’re better than “grammar Nazi.” Also, I do like the term “grammarista” after “fashionista.” The “-ista” suffix is simply the Italian or Spanish version of the “-ist” suffix, which means “someone who practices or is concerned with something.” So if you’re a “grammarista,” you’re someone who practices or is concerned with grammar. Some people would argue that “grammarista” is too positive to replace the sentiment of “grammar Nazi,” but many people who proclaim themselves to be “grammar Nazis” do so proudly, as if it’s a good thing. So if that’s you, “grammarista” is a great replacement.

(http://www.quickanddirtytips.com/education/grammar/stop-calling-yourself-a-grammar-nazi?utm_source=GG20170822&utm_medium=email&utm_campaign=Grammargirl)

引用箇所が長いので、上記議論で取り上げられている表現を以下にまとめておく：

- (18) a. errorist
b. grammando
c. peeververein
d. grammaticaster
e. grammar grouch
f. language crank
g. grammarista

このように、様々な表現が、その背景を含め挙げられている。これらの一つ一つについての詳

細な議論は避けることとするが、最後に、上記の (18b) にもある **grammando** という表現について最後に触れておきたい。

Roslyn Petelin (University of Queensland) は、オーストラリアの ABC News の Opinion 欄に掲載された記事 “Crimes of grammar and other writing misdemeanours” で、英文法についての議論をしている。その中で、言語学者の Geoffrey Pullum の “zombie rules”¹¹⁾ を取り上げながら、自身の授業でライティングを教える立場から、文法や「標準英語」 (“Standard English”) を使いこなすことの大切さを説く中で、以下のように書いている：

(19) So, what’s my stance on adhering to Standard English? I’m certainly not a grammar Nazi, nor even a grammando, a portmanteau term that first appeared in The New York Times in 2012 that’s hardly any softer.

(<http://www.abc.net.au/news/2017-03-22/crimes-of-grammar-and-other-writing-misdemeanours/8376360>)

grammar Nazi という表現と同時に、grammar と commando の混成語 (blend) である **grammando** が並列されている。(16) にも記述があったが、*The New York Times* が初出の表現であり、*Urban Dictionary* にもすでに項目がある、注目すべき表現であろう：

(20) One who is particularly particular about the accuracy of grammar, punctuation and syntax.

Tony: “At the end of a sentence, should I use a single space or two?”

James: “I heard people are now using just one.”

Chris: “What?? That’s crazy, I was taught it was ALWAYS two!!”

Muffy: “Dude, just ask my professional writer/columnist/blogger friend Mandy, she’s a total grammando, so she should know.”

(<http://www.urbandictionary.com/define.php?term=grammando>)

grammando はこの他にも議論の対象となっている。例えば、grammar Nazi の議論に関連し、(15) のような派生表現を挙げていた Anne Curzan は、同じ記事の中で、(21) のように前置きし、人間の言語の使用を変えることは難しいと認めながらも、(22) のように **grammando** の使用を勧めている：

(21) “As a scholar, I know how hard it is enact conscious language change, but that doesn’t always stop the idealist in me from trying! And yes, I am aware that it is a super prescriptive move on my part to advocate a change in usage like this.”

(22) Then I came across what seemed like an even better alternative: A grammando.

The word was introduced in March 2012 in Lizzie Skurnick's feature "That Should Be A Word" in *The New York Times Magazine*. Here's her definition:

Grammando: (*Gruh-MAN-doh*), *n., adj.* 1. *One who constantly corrects others' linguistic mistakes. "Cowed by his grammando wife, Arthur finally ceased saying 'irregardless.'"*

Skurnick explains on her website that she created the word "because I have always HATED the term "Grammar Nazi," as it makes NO SENSE, unless Jew-killing means an adherence to precision." It has gotten scattered support on a few blogs, but I have yet to see the term hit mainstream usage.

A clever blend of *grammar* and *commando*, *grammando* strikes me as an excellent alternative to grammar nazi, even though it is not yet accepted by the spell checker that is checking my spelling as I write this. The barely masked presence of *commando* creates connotations of forcefulness and enforcement, like grammar police; the inherent playfulness of the blend undermines the seriousness of the endeavor, much like peever.

これに対して、(19) の記事を書いた Roslyn Petelin は、*The Conversation* の記事の中で、*grammando* を形成する *commando* が戦争と関連した単語であることから、次のように "grammond" という表現を勧めている。

(23) Anne Curzan, a grammar maven who contributes to the *Lingua Franca* blog on *The Chronicle of Higher Education*, favours "grammando"; I prefer the much less warlike "grammond" (modelled on *gourmand*, "one who has a refined palate for grammar and savours it at its best").

(<https://theconversation.com/in-defence-of-grammar-pedantry-78670>)

人間の言語をコントロールしようとする試みはあまり有意義ではないことは明白であるが、*grammar Nazi* を中心として、*grammando* などの代替表現が今後も議論されていくことは間違いないだろう。その有力な代替表現の候補として、*grammando* が存在することは間違いないさそうである。

4. おわりに

本稿では、*grammar Nazi* という表現を足がかりに、その関連表現、そして代替表現について取り上げ、それぞれの意味と用法を議論し整理した。さらに、*grammar Nazi* のように格式

張らない表現を採録するインターネット辞書で調べられるものもあるが、そのような媒体を使用してさえ未だに詳しく、網羅的に知ることのできない表現についても言及した。

まず、**grammar Nazi** について、具体的な使用例や辞書の定義を参照しながら、その正確な意味の把握を行った。そして、表現を形成する **Nazi** について、残酷で理不尽な服従を要求する人物や、人種に関して極端で理不尽な思想を持っている人間として比喩的表現として使用されていることを改めて確認し、そこから、好ましいかどうかは別として、**XNazi** という表現形式に高い生産性のあることを明らかにした。また、生み出された表現については、そのいくつかを収集し整理した。最後に、**Nazi** が歴史的に持つ非常にマイナスな意味により、その使用を避ける動きがあることに触れ、代替表現としてどのようなものがあるかについて議論を行った。中でも **grammando** については注目すべき表現として取り上げ、その背景にも触れ、詳しく取り扱った。

もともとある単語が持つ意味が意味的に悪化、良化、一般化、特殊化など様々に変遷していくことは、ことばの変化としては歴史的にみても自然であるし、不可避である。しかし、そうであるとしても、現代社会において **Nazi** の原義をないがしろにするべきではないという視点も頷けるのである。

いずれにしても、**grammar Nazi** や **grammando** など、本稿で取り上げて分析した表現のどれが言語変化の内に消え、また生き残るのか、継続して観察していく必要があるだろう。

【注】

- 1) この議論については、Curzan (2014) が参考になる。
- 2) Crystal (2009) が詳しく分析している。また、竹中 (2016) でも、**wext** という動詞の語形成を中心に、テキストメッセージについて議論した。
- 3) この記事は、*The Atlantic* の Megan Garber の以下の記事を元に書かれたものである。ヘミングウェイの長編小説の題名をもじって、ユーモアのある “For Whom the Bell Tolls” (「whom の為に鐘は鳴る」) というタイトルの部分のみ、以下に引用しておく。詳しくは URL から記事を見られたい：

For Whom the Bell Tolls

The inexorable decline of America's least favorite pronoun



(<https://www.theatlantic.com/magazine/archive/2013/04/for-whom-the-bell-tolls/309266/>)

- 4) 同著者は、以下のタイトルの記事も同じように投稿しており、その中で、正しい綴字法や文法に従うことが重要だとするアメリカ国内の Nazi に傾倒する勢力が、自分たちのサイトの FQA の最初のページでミスを犯していると皮肉っているが、そこに Grammar Nazi という表現を使用している：

American Nazis are only okay when it comes to being Grammar Nazis

(https://www.washingtonpost.com/blogs/compost/wp/2014/06/03/american-nazis-are-only-okay-when-it-comes-to-being-grammar-nazis/?utm_term=.997bf9f33c72)

- 5) Donald Trump 大統領の Twitter での誤綴りについては、山田 (2017) で触れられている。
6) 例えば、Entertainment Weekly の掲示板で、自身のコメントの文法の誤りを指摘された人物は、わざわざ細かい指摘をしてくる相手に皮肉を込めて次のように言い返している：

Cool, I've just been grammar nazied. And yes I totally just turned the word 'Nazi' into a verb. Good God, I even just started a sentence with 'and'. Oh no, I'm out of control!!!!

(<http://ew.com/article/2013/12/05/jameis-winston-will-ferrell-espn-sportscenter/>)

- 7) Cf. https://en.wikipedia.org/wiki/The_Soup_Nazi
8) 『英辞郎』には、language police として「言語警察」という定義があるが、文法の誤りを指摘する人物を指すことはこの定義からは分からない。
9) “snoot” は頭文字語であり、意味も含めて以下のように説明している：

Am I a snoot? Snoot is the acronym that the late David Foster Wallace and his mother — both English teachers — coined from Sprachgefühl Necessitates Our Ongoing Tendence or, for those with neither German nor a cache of obsolete words in their vocabulary, Syntax Nudniks of Our Time. —*ibid*

- 10) Gotcha! Gang はエクスクラメーションマークを含む語形成がひときわ異質である。Gotcha 自体はよく知られている語であるが、OALD8 では以下のように定義されている：

1. used for showing that you understand what someone is telling you
2. used for showing that you are pleased at catching or beating someone

—*Macmillan Online*, s.v. **gotcha**

(<http://www.macmillandictionary.com/dictionary/british/gotcha>)

とりわけ 2 の意味では、相手の間違いをしてやったりと指摘する場合に使用される表現である。それが、ならず者の集団を表す *gang* と結びつくことで形成された表現のようである。次の *New York Times* の *ONLANGUAGE* というコラムの一節では、*Gotcha* にエクスクラメーションマークを含まないが、この表現が 1984 年に William Safire によって生み出された表現であることが分かる。

If there's one lesson I learned from many years of reading my illustrious predecessor William Safire, it's to show humility when called out by the Gotcha Gang. In a 1984 column, he introduced the Gotcha Gang as "that shock troop of Lexicographic Irregulars who specialize in correcting other language mavens."

(<http://www.nytimes.com/2010/06/20/magazine/20FOB-onlanguage-t.html>)

この *Gotcha* という語は生産性があり、早くは山田 (1982)、その後山田 (2014)でも取り上げられ、さらに深く考察すべき表現であるが、本稿では扱わず、次の機会に議論することとする。

- 11) *The Chronicle of Higher Education* に投稿された Geoffrey Pullum の *Rules That Eat Your Brain* (<http://www.chronicle.com/blogs/linguafranca/2012/08/29/rules-that-eat-your-brain/>) や '*The Guardian*' *Opposes Zombie Rules* (<http://www.chronicle.com/blogs/linguafranca/2013/10/09/the-guardian-opposes-zombie-rules/>) の 2 つの記事が、いわゆる "zombie rules" を巡る議論を知る上で特に参考になる。

参 考 文 献

[辞書・論文・研究書]

CALD3 = Cambridge Advanced Learners Dictionary. 3rd edition. Cambridge: Cambridge University Press. 2008.

Macmillan Online = Macmillan Dictionary Online (<http://www.macmillandictionary.com/>)

ODE3 = Oxford Dictionary of English. 3rd edition. (Revised). Oxford: Oxford University Press. 2010.

Urban Dictionary = <http://www.urbandictionary.com/>

Wiktionary = <https://en.wiktionary.org/>

『英辞郎』 = 『英辞朗 on the WEB』アルク. [<http://eow.alc.co.jp/>]

Crystal, David (2009), *Txtng: The Gr8 Db8*. Oxford: Oxford University Press.

——— (2010), *The Cambridge Encyclopedia of Language*. 3rd edition. Cambridge: Cambridge University Press.

Curzan, Anne (2014), *Fixing English: Prescriptivism and Language History*. Cambridge: Cambridge University Press.

Fromkin, Victoria, Robert Rodman and Nina Hyams (2011), *An Introduction to Language*. 9th ed. Fort Worth: Harcourt Brace College Publishers.

Hazen, Kirk (2015), *An Introduction to Language*. Chichester, West Sussex: John Wiley & Sons.

竹中裕貴 (2016), 「形態素 *-ext* を通じた語形成力の分析」『英語の言語と文化研究』第 28 号, pp.21-31.

山田政美 (1982), 『現代アメリカ語法—フィールドノート—』研究社出版.

———— (2014), 『英語の言語と文化研究—質問に答えて謎を解き明かす—』 (私家版) (CD-ROM)

———— (2017), 「英語の言語文化の世界の新たな動きを探る」『英語の言語と文化研究』第 29 号, pp.35-69.

[コーパス]

COCA = Corpus of Contemporary American English [www.american.corpus.org]

[インターネット資料]

ABC News (Australian Broadcasting Corporation)

<http://www.abc.net.au/news/2017-03-22/crimes-of-grammar-and-other-writing-misdemeanours/8376360>

BBC

<http://www.bbc.com/culture/story/20140923-dont-be-a-grammar-nazi>

HuffPost

http://www.huffingtonpost.com/entry/stephen-colbert-delivers-scathing-critique-of-steve-bannon-over-terrorism-list_us_589afbdce4b04061313a704d

Mother Goose & Grimm

<http://www.grimmy.com/>

QuickAndDirtyTips.com

http://www.quickanddirtytips.com/education/grammar/stop-calling-yourself-a-grammar-nazi?utm_source=GG20170822&utm_medium=email&utm_campaign=Grammargirl

The Chronicle of Higher Education

<http://www.chronicle.com/blogs/linguafranca>

<http://www.chronicle.com/blogs/linguafranca/2012/08/29/rules-that-eat-your-brain/>

- <http://www.chronicle.com/blogs/linguafranca/2013/10/09/the-guardian-opposes-zombie-rules/>
- The Conversation* <https://theconversation.com/in-defence-of-grammar-pedantry-78670>
- The New York Times* <http://www.nytimes.com/2010/06/20/magazine/20FOB-onlanguage-t.html>
- The Orange County Register* <http://www.ocregister.com/2014/03/06/san-juan-capistranos-devolving-discourse-comes-amid-tumultuous-times-in-local-politics/>
- The Washington Post* https://www.washingtonpost.com/blogs/compost/wp/2013/03/22/save-the-whoms/?utm_term=.36bd43c84cf0
- https://www.washingtonpost.com/blogs/compost/wp/2014/06/03/american-nazis-are-only-okay-when-it-comes-to-being-grammar-nazis/?utm_term=.997bf9f33c72
- Wikipedia* https://en.wikipedia.org/wiki/The_Soup_Nazi

(たけなか ゆうき・島根大学外国語教育センター准教授)